



VOLUNTEER

ボランティアというと、募金活動を行う、清掃活動をする、福祉施設等を訪問するなどが浮かんできます。でも、そんな特別な活動ではなく、ちょっとしたことでも、相手のためになることもたくさんあります。外国では、授業中に発表することも、先生の授業に協力するという意味で「ボランティア」と言うそうです。日常の中でもできる“ちょっとしたボランティア”（ちょボラ）を心がけてみませんか。

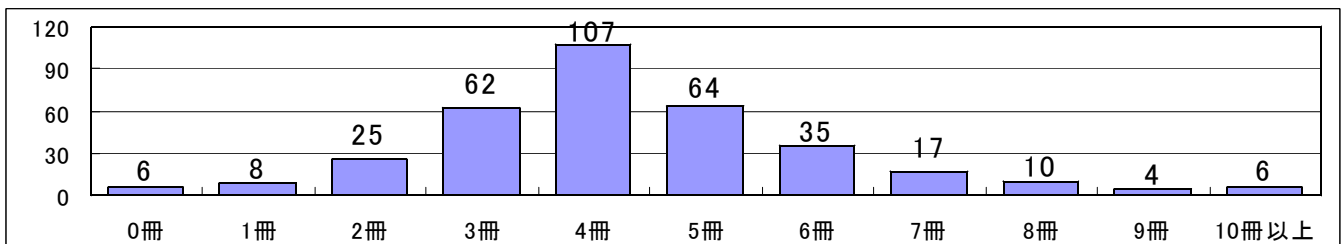
今日、12月5日は「国際ボランティアデー」です。今年は、日本が提唱し、実施された「ボランティア国際年」10周年にあたります。今から10年前、2001年の「ボランティア国際年」は、ボランティアが世界の平和と開発に重要な役割を果たしていることが、初めて国際的に認知された年でした。日本は、ボランティア活動が盛んなブラジルとともに、国連で「ボランティア国際年」を提案するなど、世界のボランティア活動に対するリーダーシップを発揮しています。「ボランティア国際年」10周年の今年は、特に東日本大震災での災害ボランティア活動が世界中で大きく注目されました。

ボランティアには、①自主性；自分から進んで、②無償性；無給、金儲けではない、③利他性；自分を犠牲にしても他人の利益を図る、の3つの柱があります。日本では古くより五人組・町内会・自治会・消防団など助け合いの慣習があったり、「お接待」など無給で社会奉仕活動を行う制度が以前から構築されたりしていましたが、ボランティア活動を行わなければいけない必要性は少なかったのです。

しかし、災害の規模や社会の変化とともに、昔ながらの組織では対応しきれなくなってきました。その例が、阪神淡路大震災でした。それを機に、ボランティア活動がクローズアップされ、社会に浸透してきました。今年の東日本大震災においては、ボランティアが大変活躍しましたし、今も活動しています。東日本大震災において、世界中から救援の手がさしのべられたのは、日本の「ボランティア」に対する役割が世界中の人々に認められていたからです。皆さんも、ボランティアの精神を持って、周りの人のために少しでも役立つことをしましょう。
(12月5日の全校集会の話から)

タートルノート終了冊数

期末テスト終了時の結果です。全体の2割の人がすでに5冊目を終了し、6冊目のノートをもらっています。昨年度は、5冊以上終了した者が172名(全体の52%)でした。残り4か月でこの記録を超えることができるようがんばりましょう。



【オーストラリア体験記⑥】 最終回は、この研修で学んだことや感じたことをまとめておく。生徒には「英語をしっかりと勉強しておきなさい」と伝えたい。言葉が通じないことは大きなストレスになる。身振り手振りを通じることもあるが、しっかりとコミュニケーションをとるためには言葉が必要である。買い物をしたり、タクシーに乗ったりする時に、はっきりと自分の意思を伝えないとトラブルのもとになる(実際、タクシーで違う場所に連れて行かれた)。入試に合格するためだけでなく、将来、国際社会で生きていくためにも必要である。

食べ物では、日本食の美味しさを再認識した。ごはんはパワーの源になる。“早寝・早起き・朝ごはん”が大切であることも実感した。また、日本人の信頼の高さを感じるできごともあった。空港やホテルで「Japanese」と告げると、厳しいチェックもなく、すんなりパスできたこともあった。その一方で、中国パワーも実感した。中国人の留学生や観光客の多さには驚いた。お店で売っている品物も、made in Chinaばかりである。コアラやカンガルーのぬぐるみも例外ではなかった。

このように、2週間の研修で異国の教育や文化に触れることができ、世界の大きさを実感することができたが、日本を離れることによって、日本のよさを再認識することができたことが、一番よかったことかもしれない。

・・・と、ここで終わるはずだったが、【体験記③】でギャグの話題を掲載したにもかかわらず、この体験記にギャグがあまり出てこないとの指摘を受けた。HPに掲載されることから、詫間町、香川県、日本の品位を落としてはいけないとの配慮からであったが、期待されたらそれに応えないわけにはいかない。最後は、オーストラリアならではの最高級ギャグで締めくくりたい。≪南十字星を見つけようと夜空を見上げていたが、なかなか見つからなかった時に言った一言。「南十字星(サザンクロス)を見つけるのは、さんざん苦労するなあ」。(完)